

【2日目/5月23日(つづき)】

各旅行会社の観光バスは次々と到着するので、牛車も次々と発車します。この日も7~8台同時に海を渡っていて、なかなか壮観でした。



牛車は、特に一列になって走るというものでもなく、各々の水牛に好きな「経路」があるようで、道も速度もそれぞれ個性があります。競争して早く着こうという者もないようです。



到着が近づくと、御者さん(でいいのかな?)が三線で沖縄民謡を披露してくれます。素晴らしいですね。



15分か20分(水牛の機嫌によっては30分)で対岸の由布島に到着します。このあと島の歩き方、昼食の場所や時刻、帰りの集合時刻など、簡単な説明のあと約2時間、自由行動になりました。



「牛車の原動力」である「水牛さんたち」は島の入口にある「プール」で休憩をします。歳をとって車を牽けなくなった水牛は、各地の動物園でのんびりと余生を楽しむのだそうです。多摩動物公園にも、由布島から「栄転」した水牛がいるそうです。



それにしても近くで見るとデカいです。普通の水牛は触れませんが、この島には触ってもOKな水牛が何頭かいて、無料で記念撮影もできます。



このメスの水牛(あんずちゃん)は、記念撮影や「餌やり」(これは有料)ができます。この水牛はやや小ぶりでおとなしい性格なのだそうです。



由布島は島全体が「亜熱帯植物楽園」になっています。関東では見たこともないような景観、植物が普通に見られます。逆に関東では普通のケヤキやコナラのような「落葉広葉樹」は全く見られません。



私が行った5月下旬は、ちょうど果樹が大きくなる季節で、花だけでなく、こういう実もあちこちで見られました。上の写真はモトマナ *Terminalia catappa* という植物の実で、「コバテイシ」「クワァディーシ」という呼び名もあります。私は初めて見た植物です。沖縄島以南に分布し、日陰木、街路樹として植えられます。果実は、ヒトは食用にしません。コウモリの好物なのとか。



昼食は島の中央にあるレストランでいただきました。うれしいことに、この豪華な昼食も今日のツアーの料金に含まれています。ツアーは船（3航路）、バ

ス、遊覧船、牛車、昼食などが全部含まれて15,000円とそれなりの料金なのですが、全部別々に支払うともっと高額になり手間もかかるので、実は結構お得です。しかも空港（観光パンフレットのスタンド）でもらった「安栄観光の割引券」で1割引きになるので、この割引券は絶対にもらっておきましょう。



由布島にはかつて人の生活がありました。これは小中学校の校門の跡地です。しかし昭和44年に台風の被害を受けて島全体が水没し、住民はほとんど移住しました。現在ここに住所を持つ人は10人余りです。



島にはおもしろい「ゴミ箱」があります。生活ゴミ用ではなく「漂着物専用」です。海岸を美しく保つために、観光客にも協力をお願いしているわけです。こうした「漂着物収集箱」は与那国島でも見かけました。多かったのはやはりプラスチック製品ですね。